

■ 計画地

東京都江戸川区臨海町六丁目1番

■ 施設概要

競技コース：約200m

ウォーミングアップコース：約180m

付 帯 設 備：フィニッシュプール・ポンプ施設等

座 席 数：約15,000席（仮設）

■ 後利用の方向性

「カヌーのスラローム会場を利用して、ラフティング等も楽しめる、周辺の公園や水域と一体となったレジャー・レクリエーション施設としていく」



案内図



大会時のイメージ

設計のポイント

① 質の高い競技施設の整備

- カヌー・スラロームの国際・国内競技大会が開催可能な競技場
- 競技者の強化・育成等の拠点となる施設

② 大会後の利用計画

- レガシー委員会やアドバイザリー会議等を踏まえた施設内容
- 周辺施設との連携

③ 環境配慮

- 効率の高い適切な設備設計
- 木材利用

④ コスト

- コスト管理

設計における対応

- 国際競技連盟の基準に適合した施設計画
(競技コース延長約200m・平均幅約10m、ウォーミングアップコース約180m、スタートプール、フィニッシュプール、ボートコンベア等)
- 使いやすい管理棟（艇庫、更衣室等）の整備

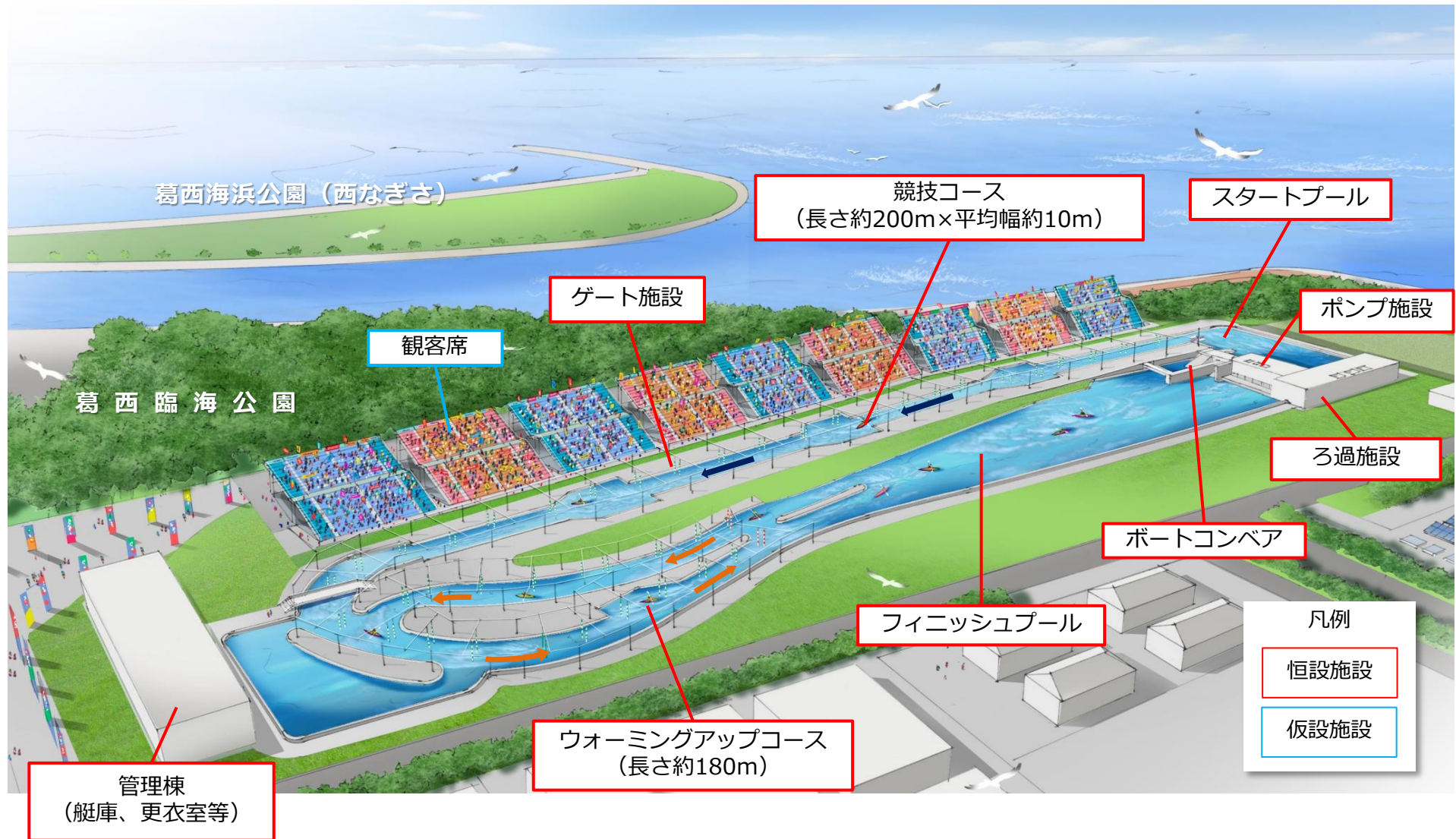
- 国際・国内競技大会の開催
- 競技力強化、普及の拠点
- 葛西臨海公園、海浜公園との一体的活用に配慮
- 多様なスポーツ利用、都民のレジャー・レクリエーションの場

- ポンプ施設の規模・配置の合理化
- 適切な水質で維持する効率的なろ過施設
- 内装（天井、壁面の一部）の木質化

- 経済性も考慮した施設配置、及び構造の比較検討
- 建設物価の動向を踏まえた積算



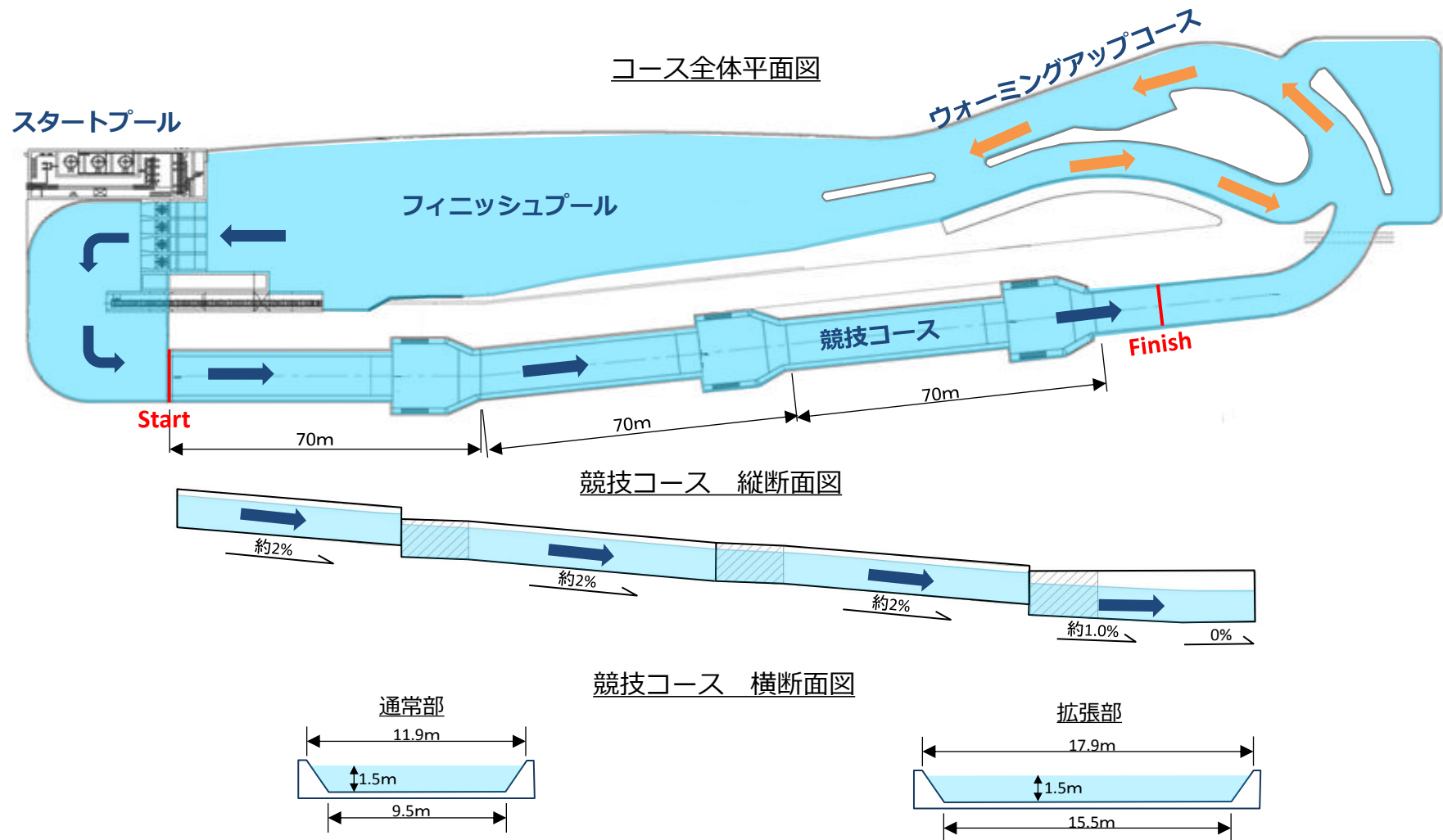
カヌー・スラローム会場 施設概要（案）



※ パースは大会時イメージ（平成28年5月時点）

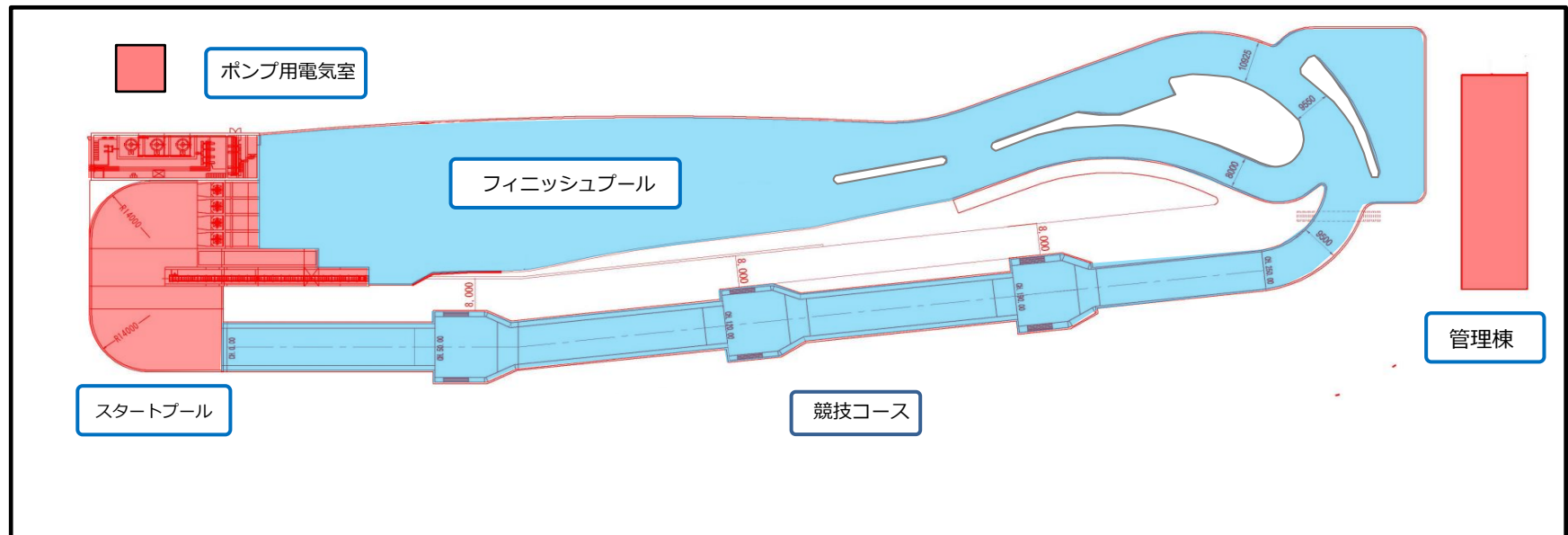
コースレイアウト（案）

- 競技コースは、技術的難度を確保するため、流れに変化を付けられるよう拡張部を3か所設置
- ウォーミングアップコースは、高低差を設けずにポンプで流れを作り、周回する形状
- 両コースとフィニッシュプールを一連として配置することで、コース全体をコンパクト化



施設特性に応じた軟弱地盤対策（案）

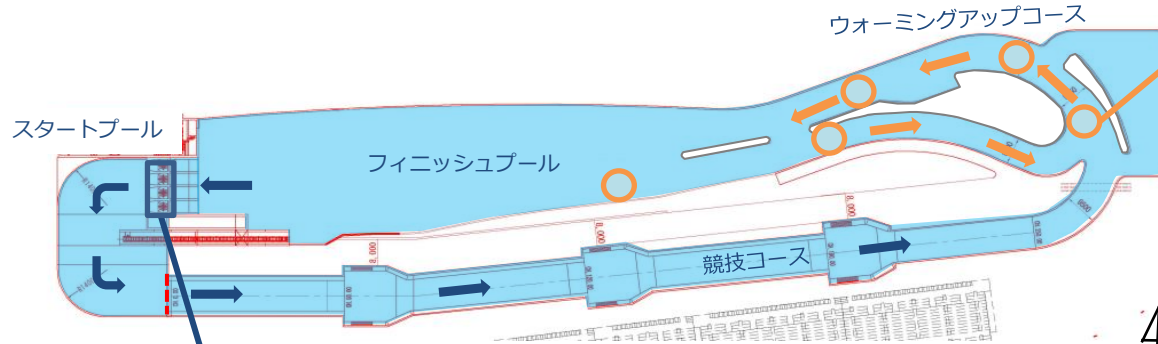
- 計画地には緩い砂層や粘性土層等の軟弱地盤が確認されている。
- 次のような、施設特性に応じた考え方により対策を行う。
 - ・ 管理棟、ろ過施設等は、杭等による強固な基礎構造とする。
 - ・ 競技コース、フィニッシュプール等は、地盤変形や損傷に対しても修繕等で機能を維持・回復できる経済的な構造とする。



-  強固な基礎構造とする施設：管理棟、電気室、スタートプール（主ポンプ・ろ過施設含む）
-  経済的な構造を採用する施設：競技コース、フィニッシュプール等

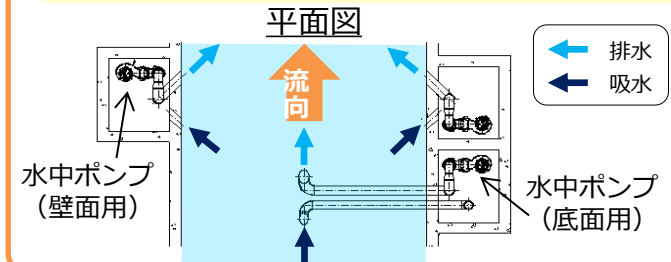
ポンプ施設の規模・配置の合理化（案）

○ コンピューターによる水流シミュレーションを踏まえ、合理的なポンプの規模・配置とプール形状を設定



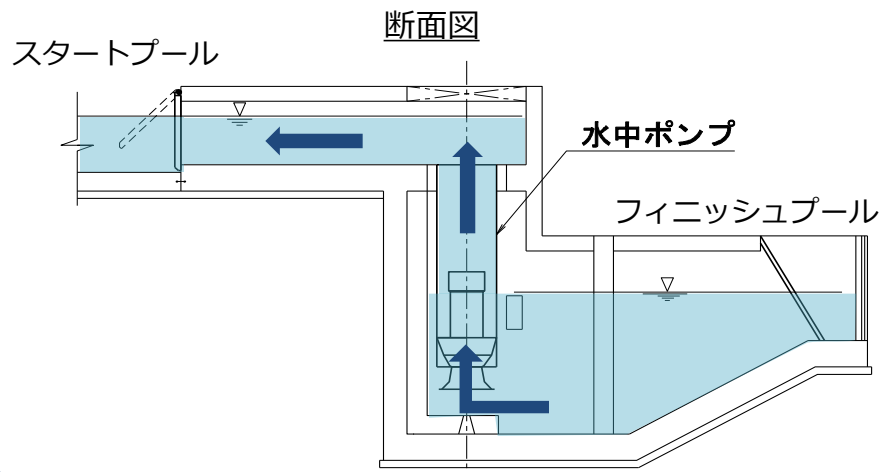
ウォーミングアップコース用ポンプ

- 消費電力が少ない水中ポンプを水路の両側壁面と底面に配置

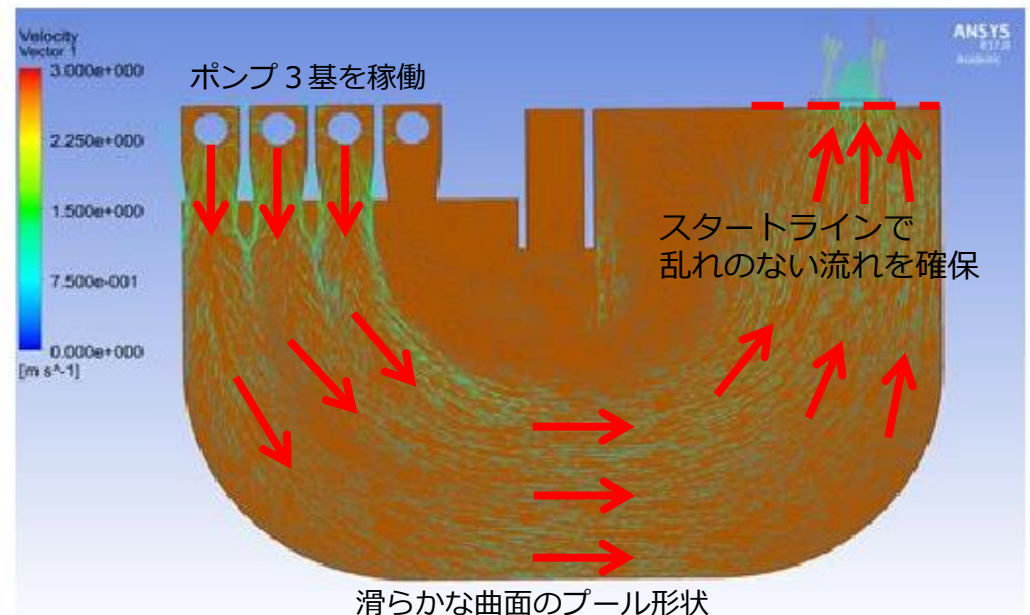


競技コース用ポンプ

- 過去大会と同形式・規模の水中ポンプ ($4 \text{ m}^3/\text{s}$)
×4台(うち1台予備)を鉛直・上向きに配置



▼スタートプールの水流シミュレーション結果（流向・流速）



使いやすい管理棟の整備（案）

- 競技コースに付帯して、艇庫、更衣室、会議室の機能を持つ恒設建物を整備
- 大会時には、競技等運営用の施設とし、大会後には都民等が多目的に利用できる施設への活用を想定

管理棟の概要

構造規模	鉄骨造2階建
延面積	約1,500㎡
1階	大会時：更衣室、競技運営諸室等 大会後：更衣室、艇庫、事務室等
2階	大会時：会場運営関係諸室等 大会後：ラウンジ、会議室等

※ 今後、競技団体等との協議を踏まえて検討

